

# 京都産業大学 共用コンピュータ利用ガイドンス

---

Kyoto Sangyo University



# 利用できる設備とサービス

京都産業大学では、すべての学生に以下の設備とサービスを提供しています。

## 共用パソコン



## ネットワークサービス



# 共用パソコンと インターネットの関係



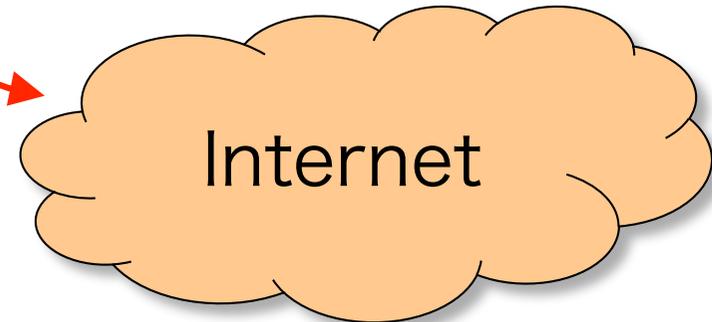
共用パソコンは京都産業大学のネットワークにつながっています。

KSU

京都産業大学のネットワークはインターネットにつながっています。

大学を通じてインターネットを利用していることに注意

Internet



# ユーザの識別

---

- ネットワークサービスは個人の識別が重要です
  - 利用者が誰か分からないとメールを届けることもできません
- そのためにユーザIDとパスワードがあります
  - ユーザIDはあなたを識別する公開の情報
  - パスワードは本人確認のための秘密の情報

ユーザID：学生証番号の先頭に g (英小文字) をつけたもの

123456 という番号なら g1123456

パスワード：学生証と同時に配布された紙に書かれています

# ユーザIDは何に使うか？

---

- 機器やサービスを利用する際の認証
  - 利用権限が割り与えられた人かどうかを確認します
    - 例： 共用パソコンを起動したとき  
電子メールを読み書きしようとしたとき
- ネットワークサービスでの個人特定
  - メールアドレスの前半部分
    - 例：ユーザID が g1234567 さんのメールアドレスは  
g1234567@cc.kyoto-su.ac.jp  
( @cc.kyoto-su.ac.jp は全学共用メールサービス)

# 利用上の責任

---

- パスワードは責任をもって管理してください
  - 他の人に分からないように
- あなたのパスワードを誰かが知ってしまうと？
  - 誰かがあなたになりすまして利用するかもしれません
  - あなたの名前で誰かに（悪質な）メールを出したり
  - あなたの名前で誰かに迷惑を掛けるかもしれません
- 自己の損害より他者への迷惑を重視してください

これらは「不正アクセス禁止法」で禁止された犯罪行為ですが、自衛も重要です。  
管理の怠慢＝犯罪行為への加担につながることを  
忘れずに。

# コンピュータガイド



- 1.3 「情報システムを利用する際のマナー・ルール」を読んでもください
- 禁止事項が書かれています
- ローカルルールもあります
- 「知らなかった」は認められません

# パスワードの変更

---

- 何度でも変更ができます
  - ただし「悪いパスワード」にしないように

## 悪いパスワード例

- ユーザIDと全く同じ、もしくはユーザIDに数字をちょっと付け足したくらい。
- 自分や知り合い、有名人の名字、名前、誕生日、電話番号。
- 数字や英字だけ（本学ではそのようなパスワードには設定できません）。
- 単語（英語・国語・地名・人名辞典等あらゆる辞書に載っている単語全てです）

## 良いパスワード例

- 自分だけ知っているオリジナルの文字列。
- 大文字、小文字、数字、記号を全て含んでいる。
- 思いつかなければ再発行したランダムな文字をそのまま覚えて使う

# メールアドレスの設定

---

- 好みのメールアドレスを一度だけ設定可能です
- あなたを連想しやすいものが覚えやすくてよいでしょう
- hiroaki.shimada@cc.kyoto-su.ac.jp など

就職活動など対外的に使うことがあるので、ひどい名前を選ばないこと（再度変更は利きません）

- 在学生向けWebページにある「コンピュータ環境の使い方」にある「メールアドレス設定」で操作

# 共用パソコンが使える場所

---

- 全学部共用（授業の可能性あり・自習に使える場合もある）
  - 10号館2F, 3F
  - 5号館2F、12号館3F、図書館
- 他に学部専用設備もあり

# プリンター運用ルール

---

- 授業では教室に紙が用意される
- 自由利用時間では、自分で用意
- 紙はコピー用紙、レーザープリンタ用紙として売られているもの
  - 学内の売店や文具・事務機店などで購入可能
  - インクジェット用は故障原因になるので注意
  - レポート用紙なども使えない

紙の入れ方などに特殊なルールがあるので、  
コンピュータガイドをよく見て利用

# ガイドライン

---

- 京都産業大学インターネット利用に関するガイドライン
  - ローカルルール
  - 自分が正当な利用権利があると思われるデータであっても大学の設備に置いて良いかどうかは別問題
  - 合法的な Web ページであっても大学の設備に作って良いかどうかは別問題
- 情報倫理教育(Web based training) もあります